

## P2-030

### 中学生ふれあい体験時の保育者の意識調査—事前指導及び危険意識に焦点を当てて—

伊藤 優、鎌田 雅史

就実短期大学 幼児教育学科

#### 【目的】

中学校学習指導要領における技術・家庭/家庭分野において、幼稚園や保育所などでの幼児とのふれあい体験が重要視されている。一方で、幼児と触れ合う経験の少ない中学生が幼児とかかわる際には、ヒヤリハットする事例も多く存在する(伊藤・山本・伊藤, 2018)。また、子どもの年齢によって事故内容も異なる。そこで、実際にふれあい体験を受け入れている保育者たちが、中学校教員に対してどのような事前指導を求めているのか、またどのような状況を危険と認知するのかに関する調査を実施した。さらに、これらの意識が園の種類や担当クラスの年齢によって差が認められるか否かについて検討を行った。

#### 【方法】

2018年10月に各都道府県の私立幼稚園協会、保育所連盟に、中学生のふれあい体験を受け入れている保育所・幼稚園に推薦を依頼し、2018年11月～12月に推薦された園に対し質問紙を郵送し、各5名の保育者に回答を依頼した。192園の協力が得られ、有効回収率は72.0%(806名)であり、有効回答率は97.0%(782名)であった。対象者の内訳は、幼稚園252名、保育所294名、認定こども園234名、不明2名であり、経験年数の平均値は14.4年であった。

#### 【結果】

- (1) 全体として、子どもに触れ合う知識や技術よりも、ふれあい体験に挑む意識付け、子どもと触れ合う基本的な態度、社会的マナーなどに関する指導を強く望んでいることが示された。
- (2) 乳児クラスの保育者ほど、中学生が持参するおもちゃの小さいパーツやアクセサリー類などの中学生の服装などに危険を感じやすいことが示唆された。
- (3) 急に乳児の手を引っ張るなどの中学生の乱暴な行動、不衛生や言葉遣いなど子どもへの配慮に欠ける行動について、幼稚園や認定こども園よりも、保育所の保育者のほうが危険だと考えている傾向が示された。
- (4) 子どもとの遊び方や接し方などの保育技術については、幼稚園のほうが中学校家庭科授業で事前に学んできてほしいと考えている保育者が多い傾向が示された。

#### 【考察】

保育者は中学生が乳児と触れ合う時ほど、中学生の行動や服装などに危険意識を強く感じる事が示された。また、所属園によって、事前学習してほしい内容や中学生の行動に対する危険意識に差が生じていることが明らかとなった。

## P2-031

### 児童虐待の未然防止に寄与する保育機関の役割：保育者インタビューから抽出された子どもと家族を包摂する支援

石山 あづ美

常葉大学 保育学部 保育学科

#### 【目的】

児童虐待については、発見後対応に向けての社会資源の充実が図られている現状である。一方、小児保健の観点からは虐待の未然防止が課題であると認識されており、健やか親子21の基盤課題・重点課題には、切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策、妊娠期からの児童虐待防止対策等が示され、母子保健と子育て支援を包括的に行う「子育て世代包括支援センター」が市区町村に設置されつつある。他方、保育機関の保育者も、子どもとその家族に日々接しながら、チームワークによる子育て支援を実践しており、それは虐待の未然防止に多大な貢献をしているものと推測される。虐待防止に寄与する保育機関による支援を明らかにすることは、関係機関との連携における切れ目のない支援に資するものと推察される。本研究では、保育機関が実践している支援の現状を、保育者へのインタビューにより明らかにすることを目的とした。

#### 【方法】

保育所・幼稚園の園長経験者3人を対象とし、2019年3月に、1人約1時間の半構造化面接調査を実施した。対象者には目的、方法、倫理的配慮、成果の公表等を説明し、署名による同意を得た。インタビュー内容は筆記により記録された。筆記記録をもとにデータを作成し、質的分析を行った。

#### 【結果】

分析の結果、以下の7カテゴリーが抽出された。(1) 経験の集積により、虐待につながりやすい保護者と子どもの特性を把握している、(2) 入園前から関連機関による情報提供があり、個人調査票からの情報を併せて、個々の状況を把握する、(3) 子どもと家族への多面的な観察により、変化の兆候をキャッチする、(4) 職員間での迅速な情報共有とともに守秘義務の順守を徹底する、(5) 子どもの長所を日々保護者に伝え、保護者ができていることを褒める、(6) 保護者に対して指導的にならず、自ら気づけるように支える、(7) 保護者に保育参加などの機会を設け、個別に相談しやすい態勢を築く。

#### 【考察】

保育機関の保育者は、子ども本人のみならず、父母、祖父母、きょうだいを含めた家族全体と日々触れ合うことが職務の特徴である。子どもの特性および環境を包摂して支援している現状が明らかになった。結果より、保育機関での子育て支援が児童虐待への抑止力となっていることが推察された。今後はより多くの保育者を対象とした面接調査を実施し、精度の高い質的分析結果を示すことが課題である。